

第6期関市まちづくり市民会議

関市が
もっといいまちに
なるための提案書

関市まちづくり市民会議の歩み

まちづくり市民会議（以下、市民会議）は平成 24 年からはじまりました。今期、第 6 期関市まちづくり市民会議は、平成 29 年 10 月にスタート。毎月 1 回程度全体会や、必要に応じて部会を開催し、これまで 10 回以上の会議を重ね、今回の政策提案に至りました。

市民会議の目的は、市民の参画と協働によるまちづくりを推進するため、市民の視点から市が抱える課題を洗い出し、課題解決のための様々な事業を提案することです。

市民会議の委員は、18 名の公募の市民により構成されています。20 代～80 代の幅広い年齢層となっております。

今期の市民会議は、第 4 期から引き続き、実践に重きを置きました。関市の課題を考え、それに対する解決策を考え、実践してみた結果を元に関市への政策提案を行います。実践をしたことで、政策に説得力が増すとともに、その政策を実行する主体についても実体験を元に検討する事ができています。

部会名	取組む課題
チーム「関のいいところ再発見！」	関に住む、子どもを持つ家庭が関の川の遊び方を知らない
チーム「インバウンド＜外国人を迎える会＞」	外国人を受け入れる体制が出来ていない
チーム「関フレンズ」	ボランティア活動をしたい大学生と地域が繋がっていない

〈まちづくり市民会議の歩み ～主に全体会～〉

	開催日	会議内容
第 1 回	平成 29 年 10 月 15 日	問題意識の発表会
第 2 回	11 月 19 日	部会分け、地域課題を議論する
第 3 回	12 月 17 日	目指す姿・課題の原因を考える、行政へのヒアリング
第 4 回	平成 30 年 1 月	部会活動 事業を考える
第 5 回	2 月	部会別活動 事業を考える
第 6 回	3 月	部会別活動 事業を考える、事業の実施方法を考える
第 7 回	4 月	部会別活動 事業の実施方法を考える、事業実施
第 8 回	5 月	部会別活動 事業実施
第 9 回	6 月 24 日	政策提案を考える
第 10 回	7 月	部会別活動 政策提案を考える

まちづくり市民会議の提案は？

これまで第1期～第4期のまちづくり市民会議から市へ政策提案を行いました。各提案の概要と、その提案に対して担当課から出された回答を紹介します。

【第1期】



「親子読書コンクール」(学校教育課)

概要) 夏休みに、親子で読書をし、その本の感想を親子で共有します。そして親子読書の様子を発表するコンクールの開催を提案します。

結果	採用
実施状況	平成25年8月27日に「ファミリー読書発表会」を開催しました。学校等から推薦のあった家族(3～4組)の発表、図書館教育推進校の指定を受けている学校の発表、市立図書館の取組についての発表をしました。 今年度は8月27日(木)に開催します。



「子どもたちの地域間交流」(学校教育課)

概要) 市内の小学生が、関市内の各地域の魅力を知るために、旧関市内と合併地域とで交流事業を実施することを提案します。

結果	不採用(既存の事業を拡充します)
担当課からの回答	平成24年度から行っています「中学生リーダー養成研修会」において、例えば武儀・上之保地区を尋ねて、その地域の自然や文化等を題材にして交流を図るなど、工夫して実施したいと思います。



「学校のHPの改革」(学校教育課)

概要) 学校への理解者を増やし、自校の教育活動をより活発化するためには、まず、学校が生きた情報を出し続けることが必要であり、そのために、教師とPTA、子どもたちが力を合わせて学校のホームページを作成することを提案します。

結果	採用
実施状況	HP運営について、新しい情報を容易にかつ迅速に掲載できるように、平成26年度に、市内30校が基本的に同じフォームになるHPの作成をしました。

提案
4

「SNSを活用した親と教師・学校をつなぐコミュニケーション」(学校教育課)

概要) 親と教師のコミュニケーションを図るために、Facebook グループ等のSNSを活用する。

結果	不採用
担当課からの回答	「親と教師・学校をつなぐコミュニケーション」は非常に重要なことです。顔を合わせて話すことが最も基本的で大切な方法だと考え、各学校では、保護者が学級担任以外の職員にも気軽に相談できるよう、年度当初のPTA総会や案内文書で積極的に相談窓口等を紹介しています。SNSもコミュニケーションの一つの方法ですが、互いの真意を伝えることが難しいことが一番の課題と考えます。また、送信するのは気軽にできる反面、同時期に多数の質問や意見等が学校に寄せられた場合、その一つ一つに丁寧に対応しようとするとどうしても時間がかかり、迅速に対応できなくなることも十分に考えられます。

提案
5

「子ども、親、教師が参加する学校対抗の行事」(学校教育課)

概要) 日常的に学校の情報を共有することは大切だが、親、子どもと教師が一緒になって行事に取り組むことで、心の一体感が生まれる。そこで、親、子ども及び教師と一緒に活動に取り組む機会がなかなかなかったことを踏まえ、誰でも参加できる軽スポーツ(たとえば、綱引きや玉入れ)を学校対抗で行うことを提案します。

結果	不採用
担当課からの回答	子どもと親と教師が一堂に会し、学校対抗を行う行事の開催は難しいと考えています。現在、「連合音楽会」(小・中)やタグラグビー(小)、水泳記録会(小・中)、「わたしの主張大会」(中)のほか、スポーツ少年団や中学校部活動の各種大会など通して、学校間の児童生徒の交流が行われていますが、この交流がさらに豊かなものになるよう働きかけをしていきたいと思っています。



提案
6

「関シティバス・デマンドバスの導入」(市民協働課)

概要) 利用者の移動目的に合った地域公共交通を提供するため、デマンドバスの導入を提案します。

結果	採用
実施状況	<p>現在4地域(富野、田原、迫間、向山)で導入している簡易型デマンド運行バスは、10人から15人乗りのワゴンを利用し予約に応じた運行を行っております。</p> <p>現在、定時定路線で運行している関シティバスの中で、わかくさ・下有知東線、下有知西線、小瀬線については、関市のバス運行評価において運行形態の見直しを行うという結果が出ました。それを受けて上記3路線の運行エリアにタクシー車両を利用したデマンド運行を今年度導入しました。</p>

提案
7

「シティバス・定期乗車券の導入」(市民協働課)

概要) 公共交通の通学利用者を増加させるため、バス定期乗車券の導入を提案します。

結果	不採用
担当課からの回答	<p>定期乗車券の導入により利用者の若干の増加は期待できますが、通学利用者の運賃を割引くことによる収入が減少することが考えられます。したがって、関市シティバスの定期乗車券の導入は、現状では効果が低いと思われるために、今後、慎重に検討していきます。なお、現在、シティバスの回数券(100円券が11枚綴りで1,000円)を販売していますので、市民周知を行い回数券の利用促進を図っていきます。</p>

提案
8

「関シティバス・市民サポーター制度の導入」(市民協働課)

概要) 持続可能な公共交通を実現するため、市民サポーターによる支援組織を設置することを提案します。

結果	不採用
担当課からの回答	<p>長良川鉄道につきましては、マイルール意識、存在の意義について市民の方に理解をいただいて様々な形で市民の皆さまからサポートしていただいておりますが、シティバスについてはまだその意識が薄いのが現状です。地域の公共交通を確保するために関シティバスの利用しやすい仕組みや路線を考え、改善を行っていく中で、関シティバスをはじめとしたバス交通の必要性を理解していただくことが優先だと考えています。</p> <p>現在はバス車両を利用した広告掲載によって一部サポートをしていただいておりますので、企業や店舗に対して広告掲載を募集しています。</p>

提案
9

「関シティバス・観光事業との連携」(市民協働課)

概要) 新たな利用者を増やすため観光事業との連携を提案します。1日フリー切符の導入、公共交通で楽しむ関市観光ガイドブックの作成、乗車特典等。

結果	不採用
担当課からの回答	平成26年4月に完成した関シティターミナルの待合所には、観光案内板や特産品販売のショーケースを設置し販売を開始しました。関シティターミナルの乗継拠点としてのPRおよび、シティバスを活用した観光ルートとバス路線図をまとめたガイドブックの作製を行い、関市観光協会と協力し、今後関シティバスを観光利用につなげていきたいと考えております。なお、1日フリー切符の導入は、利用者数や利用料金などの面で効果が低いと考えられますが、今後の課題として研究します。

提案
10

「長良川鉄道・トロッコ列車の復活」(市民協働課)

概要) 観光目的の利用者を呼びこむ目玉として、かつて存在したトロッコ列車の復活を提案します。

結果	不採用
担当課からの回答	平成26年3月に沿線市町職員で構成される長良川鉄道再生研究会から沿線市町首長(取締役)に対して観光用車両の提案を行いました。 長良川鉄道からは導入に当たり、コスト面の詳細な分析、調査や線路等施設の耐久性調査等様々な課題があるという回答を得ています。 現在、トロッコ列車ではありませんが、観光列車の導入に向けて準備を進めています。

【第2期】

提案
1

「将来の想いに火を灯せ（カタリバ等の実施）事業」（学校教育課）

概要）市内の中高生を対象に認定NPO法人カタリバを招いて講演会またはカタリバ体験会を開催し、将来を話し合う対話スタイルについての理解を深めます。継続的に関市内で実施していくための実行委員会を組織し、その市民ボランティアを広く募ります。

結果	不採用
担当課からの回答	高校生に有効だと考えるので、市の教育委員会として働きかけることができる関商工高等学校に、キャリア教育の一環として紹介できます。

提案
2

「キャリア・コーディネーター設置事業」（学校教育課）

概要）より充実したキャリア教育を、より円滑に行うために「キャリア・コーディネーター」を学校に配置します。キャリア・コーディネーターは、生徒の相談対応や学校と企業等との調整役を果たします。

結果	不採用
担当課からの回答	キャリア教育に外部人材を登用して充実を図るということについて、内容や方法を十分に検討した上で実施を考えたいです。 今年度は、トップアスリートを招いて夢をかなえることの大切さや、夢をかなえるために努力することの大切さを学ぶ「夢教室」をキャリア教育の一環として開催します。

提案
3

「関市版キッズニア事業」（学校教育課、商工課）

概要）子ども向け職場体験型テーマパークが都市で人気です。そこで関市でも市内に様々な職種・職場があることを活用し、子どもたちに地域にある職場で仕事を楽しく体験してもらいます。「ハサミを組み立ててみよう」「ミシンを踏んでTシャツを作ってみよう」等、関の産業を見ることは郷土教育にもなります。

結果	不採用
担当課からの回答	<p>小学生の職場体験は、職業を疑似体験することに矮小化されないよう配慮することと、児童の発達段階を考慮して、慎重に進めるべきと考えます。また、中学校で行っている職場体験との共通点や相違点を明らかにして、検討する必要があります。また、国の教育改革の動きが加速しており、この事業の優先順位は低く実現できません。(学校教育課)</p> <p>関市でテーマパーク的に集約して、多様な職業を体験できるようなメニュー化は難しいと考えます。今年度は「関の工場参観日」を夏休み期間(8月26日～29日)に設定し、子ども向けのメニューも多数用意しているので、ぜひ参加していただきたいと思います。(商工課)</p>

提案
4

「キャリア教育の日の制定(学校教育課)」

概要) 市民みながともに話し合い、高め合う日としてキャリア教育の日の制定を提案します。

結果	不採用
担当課からの回答	<p>キャリア教育に対する市民への啓発にはたいへん有効な提案であると考えます。具体的な活動内容について、学校等との調整を図りつつ、実現に向けて検討したいと思います。しかし、学校はそれぞれの地域の実状に合わせた地域との連携した事業に取り組んでいるため、関市全体でキャリア教育の日を制定するのではなく、各学校が取り組むべき事業に優先順位をつけて取り組むことが重要と考えます。(学校教育課)</p>



提案
5

「市長、部長インターンシップ」(職員課)

概要) 関市内の若者に、関市長、部長へインターンシップする事業を提案します。

結果	採用
担当課からの回答	<p>提案された内容を実施可能な形にするため、募集人員、期間、交通費について一部修正させていただき、今年度実施予定です。活動報告会については、まちづくり市民会議のみなさんが主体となって開催を検討していただきたい。(職員課)</p>



提案
6

「学生による投票率アップチームを結成」(総務管財課)

概要) 若者の投票率を上げるために、学生による学生に向けた投票率アップを訴える広報を考える事業を提案します。

結果	採用
実施状況	平成26年度、学生を公募し、学生による啓発グループ「ikomai プロジェクト」を結成しました。成人式や開まつりで投票率アップのための啓発活動を行いました。(総務管財課)

提案
7

「高齢者いつでもサロン」(市民協働課、高齢福祉課)

概要) 高齢者が集まるために、誰もがいつでも気軽に立ち寄れるような常設の談話室のような空間「高齢者いつでもサロン」を提案します。

結果	不採用
担当課からの回答	<p>高齢者にとってたまり場は必要不可欠な場所であるため、市が取り組んでいる地域委員会(概ね小学校区を単位として設置)の取り組みとして提案していきたい。(市民協働課)</p> <p>提案にある場所での常設サロンの開催は困難であると思われます。現在のサロンとしては、高齢者たまり場創造事業のモデルとして、シルバー人材センターに委託している「にこにこサロン」を本町で開設しています。歩いて行けるような身近な地域ごとのサロンとしては、社協支部の活動を地域委員会や老人クラブ、まちづくり委員会などと連携し、地域の実状に合った開催を検討する必要があります。(高齢福祉課)</p>

提案
8

「好きなことバンクと助け合いポイント制度」(企画政策課、高齢福祉課)

概要) 高齢者の好きなこと、得意なことを登録した「好きなことバンク」の設立と、日常生活の助け合いを気兼ねなく行うために「助け合いポイント制度」を提案します。

結果	不採用
担当課からの回答	対象者を高齢者に限らず、ボランティア活動が広く市民に普及する仕組みを、地域通貨の導入と併せて研究していきます。(企画政策課) シルバー人材センターに委託している「ワンコインふれあいサポート事業」と重複する部分があるように思われるため、事業の棲み分けを十分検討する必要があります。社協や市の関係課とも協議をしながら、導入できるかどうか検討します。(高齢福祉課)

提案
9

「地域コーディネーター育成事業」(高齢福祉課)

概要) 提案7、8の事業を行うためには、高齢者の取りまとめ役となるコーディネーターの存在が不可欠です。地域コーディネーターの育成事業を提案します。

結果	不採用(既存の事業を拡充します)
担当課からの回答	まずは、高齢者自らが、自分たちが主体となり、地域づくりをしていくという意識づくりが重要であると考えています。生産年齢の減少により、労働力はますます減少するので、元気な高齢者に頑張っていただき、支援の必要な高齢者の支えになっていただきたい。持続可能な社会を存続するために元気な高齢者の力を期待しています。(高齢福祉課) 地域リーダーの育成事業として「地域づくり型生涯学習コーディネーター育成研修」や「まちづくりリーダー養成事業」に取り組んできました。新たに事業を立ち上げるより、この事業に高齢者の視点を取り入れた内容を位置づけ、講座受講後の実践の場を提供します。(生涯学習課)

提案
10

「幸せ創造授業」(学校教育課)

概要) 子どもの頃から人口減少時代の幸せについて考えることを定期的に行うことが大切です。小中学校で、人口が減って行く現状を教え、その後、その世界で「自分が幸せに暮らすために」について考える時間をとります。

結果	不採用
担当課からの回答	学校教育でぜひ取り上げたい内容です。実施方法は各学校の判断に任せますが、家庭教育学級説明会や校長会等において幸せ創造授業の実施を提案します。

提案
11

「幸せ実現企業」(商工課)

概要) 提案 10 で出た中学生からのアイデアを関市の企業が本気で実現する場合「ビジネスアイデアコンテスト」を提案します。

結果	不採用
担当課からの回答	「ビジネスプラス展 inSEKI」の場を活かす事が有効であるとの提案なので、秋に初めて開催する「関の工場参観日」も含め、実行委員会を組織しているの、提案の報告をしながら検討してまいります。(商工課)

提案
12

「幸せ応援行政」(商工課)

概要) 提案 10、11 を取り組む上で、行政が金銭的、人的にサポートすることを提案します。

結果	不採用
担当課からの回答	企業の商品開発のために補助することは難しいと考えます。提案事業2にあるような子どもたちのアイデアコンテストと連動した支援を検討します。

【第3期】

提案
1

「関のグルメの新提案 関デカ盛りプロジェクト」(観光交流課)

概要) 各種飲食店が、常人では到底食べることができないその店オリジナルの“デカ盛りメニュー”を考案し提供する。その各店がチームとなり、さまざまな情報発信から誘客、経済活性につなげます。

結果	現状、不採用
担当課からの回答	<p>今回ご提案頂いた企画やコンセプトについては、市(行政が)中心となって実施するものではなく、熱意ある各店舗や商店街等との連携により実施するものと考えます。提案のありました事業について、各種店舗が集まる観光協会等において意見を聞き、連携して取り組んでまいります。</p> <p>→(現在の状況)今のところ関係業界からの反応はないが、次回の観光協会総会で意見を聞いたり、各種業界に文書などで照会しながら、反応を見ていきたい。</p>

提案
2

「小瀬鵜飼コンパ開催」(観光交流課)

概要) 千有余年の伝統漁法「小瀬鵜飼」が行われる小瀬鮎の里で、男女が出会う機会を創出。幽玄なかがり火が、燃え盛る恋の炎に変わります。

結果	現状、不採用
担当課からの回答	<p>小瀬鵜飼保存会、観覧船事業を運営している関遊船株式会社、そこにかかわる船頭さんら関係者と、今回の提案について情報提供し意見交換を行います。また、鵜飼婚活の実施の際には、生涯学習課(公民館)における婚活施策や街コンを行う団体とも連携したいと考えています。</p> <p>→(現在の状況)今のところ反応はないが、引き続き、小瀬鵜飼保存会、観覧船事業を運営している関遊船株式会社、船頭さんら関係者と意見交換をし、実施に向けて検討を重ねたい。</p>



「わかもの活躍サポートセンターの設置」(市民協働課)

提案
3

概要) 市内に点在し、活動時間も様々な若者を集めるにはどうしたらよいのでしょうか。高齢者のたまり場作りが進められているように、若者のたまり場ともいえる施設を設置してはどうかと考えました。

提案
4

「若者まちづくり会議の開催」(市民協働課)

概要) 関市まちづくり市民会議は多世代の集まりです。若者にスポットを当てた、福井県鯖江市のJK課や全国各地で開催されている“若者会議”を関市でも設置してはどうかと考えました。

結果	採用
担当課からの回答	<p>この関市市民活動センターにおける若者支援の役割を強化させることは重要ですので、若者に特化した事業を来年度から試行的に実施します。</p> <p>→ (現在の状況)</p> <p>今年度、市民活動センターが若者まちづくり会議を実施予定です。</p> <p>また、今年度より関市では、市内の高校生(主に関、関有知、関商工)を対象とした若者協働推進事業「まちづくり倶楽部」が始まりました。毎月テーマの異なるイベントに参加し、関市やまちづくりに関することを気軽に楽しく学んでもらうことで、将来のことを考え積極的に活動できる若者を育成することをねらいとしています。継続的な事業を予定しており、長期的には、市政に対する協力・提案など、未来の関市のリーダーとなる若者を育成していきたいと考えています。</p> <p>また随時、参加する高校生からの提案・意見を受け付けており、毎月のイベント内容に反映していく予定です。</p>

提案
5

「新ブランド『刃モノ一生モノ』の設立」(商工課)

概要) 新ブランドとして『刃モノ一生モノ』を立ち上げます。「一生使える物」という絞り込みを行い、企業から「一生使える刃物」、「一生メンテナンスの約束ができる刃物」公募し、外部認定委員会が認定します。

結果	現状、不採用
----	--------

担当課からの回答	→（現在の状況）関市の刃物は高い評価を受けておりますが、企業ごとでブランド展開されている場合が多いかと思えます。しかし最近では、今治タオルなど産地ブランドが浸透してきておりますし、刃物会社様とはビジネスプラス展、工場参観日、はもけんなどの行事も含め関係を持っており、今後もブランディングについても引き続き意見を聞いていきたいと考えております。
----------	---

提案
5

「関は『刃物を使う町』『刃物を贈る町』として
市民からムーブメントを起こす事業」（商工課）

概要）関市民は刃物を使うまち、贈るまちであることのムーブメントを作ります。刃物のまちとして、市民が使うこと、贈ることを気に留め、行動に移すことで、市民の取り組みが話題を呼び、外部に向けた関市自身のブランディングへの一役となります。

結果	不採用
担当課からの回答	→（現在の状況）市では、伝統的な刃物が市民の皆様にとって、より身近に感じていただけるよう「ビジネスプラス展、工場参観日、はもけん」など刃物を身近に関われるイベントを行っています。これからも市民の皆様のムーブメントに合わせて、取り組んでいきたいと思えます。

提案
7

「わがまち防災会議の開催」（危機管理課）

概要）市全体ではなく、小学校区単位で防災会議を開催する。地域住民が、地域で起こり得る災害について話し合い、避難方法など行動計画をつくることを3年毎に実施する。

結果	現状、不採用
担当課からの回答	<p>地域で起こりうる災害を学び、訓練が実施できるよう、地域委員会や自治会連合会支部などに対して、先進地区の事例などを紹介したいと考えます。また、すでにある防災訓練補助金を有効に活用いただき、防災会議等が実施できるよう要綱の見直しや予算確保に努めます。さらに、提案をいただきました防災会議の講師紹介なども、市として積極的に行います。</p> <p>【回答】</p> <p>→（現在の状況）多様な訓練を行っていただけるように防災訓練補助金要綱を見直し、予算の確保を行いました。また、岐阜大学内に設置された「清流の国ぎふ防災・減災センター」に講師派遣の協力を依頼しました。</p>

提案
8

「運転免許更新時における災害DVDの視聴」(危機管理課)

概要) 運転免許更新時の交通安全講習会に交通安全啓発用DVDとともに防災啓発用DVDを視聴してもらう。運転免許保有者は、毎年ではないものの必ず3～5年に1度受講するため、防災意識を向上させる良い機会となる。

結果	不採用
担当課からの回答	<p>関市で実際に発生した災害を題材とするDVDについては、防災を身近に考えるための教材として活用できると考えますので、DVDの制作を検討します。</p> <p>→ (現在の状況) 関市で実際に発生した過去の災害の調査を行うだけでなく、関市で起こる可能性の高い災害についても調査を行いDVD製作の検討を進めます</p>

提案
9

「非常食を活用した料理コンテスト・料理教室の開催」(危機管理課)

概要) 行政が備蓄している災害用非常食を使った料理コンテストや料理教室を開催する。消費期限が到来する災害用非常食を防災訓練などで単に配布することよりも有効活用することができる。

結果	不採用
担当課からの回答	<p>→ (現在の状況) 非常食を使った料理のレシピは、既に多く公表されており、その中から関市が備蓄している非常食などを用いた料理について、防災訓練などの各種イベントで紹介できるよう検討しています。</p>

【第4期】

提案
1

若者向けにアプリ、メールで関のお店情報の配信を(安心メール活用)(市民協働課)

概要) 安心メールの選択項目の一つとして、「若者向け、市内の魅力的なお店の紹介」を追加します。定期的に、お店の記事が配信される仕組みです。配信される情報は、提案1等で作成したもの等が考えられます。この情報を配信するための学生チームをつくることも有効だと考えます。

結果	不採用
担当課からの回答	<p>市が特定のお店や遊びの場所を紹介することはできませんので、観光協会や商工会議所などの協力が必要です。若者に向けた関市紹介アプリなどの開発支援を、市民活動助成金をできるのではないかと考えます。今後の展開としては、商工会議所等を通じて商店の学生割引拡大やPRなど若者</p>

に向けた発信が増えるよう働きかけをしていきたいと考えます。
 あんしんメールを使ったグルメ情報の発信について積極的な考えではありません。



提案
2

関市の魅力的なお店を書いた情報紙を学生が中心に作成。それを入学式に配布する。(市民協働課)

概要) 現在、岐阜医療科学大学では、学生自治会が中心となり、関市のお店情報を作成し、それを入学生に配布しています。それを、関市全域に広げては如何でしょうか。市内の大学生とサポートする大人が集まり、「チェーン店だけではない、関の魅力的なお店」の情報紙を作成し、関の大学、専門学校の新入生全員に配布します。

結果	採用
担当課からの回答	市が特定のお店を紹介した情報紙を作成することは困難ですので、学生自治会が中心に実施していただくことが良いと思います。サポートとして、「関市市民活動センター」に入ってもらい、市民から見た情報なども盛り込めると良いと思います。関市のお店情報を観光情報などと併せて、大学の学生自治会に作成、配布していただき、それに対して市民活動助成金で支援します。観光情報やお土産情報、さらに市内のバス運行や長良川鉄道などの公共交通に関する情報が、学生向けに発信されていないことがわかります。作成にあたり、掲載する情報を、関係課と大学で打ち合わせます。



提案
3

- 路線バスを使った観光モデルコースをつくる
- 路線バスで観光地に行くことを呼び水に、路線バスの乗り方講習会を開催(市民協働課)

概要) 今回の板取ツアーのように、現在既に走っている路線バスで観光できるためのモデルコースを作ります。季節ごとに、板取だけではなく、上之保や武儀へのツアーを作ります。また、その路線バスで観光の旅を企画する時、最初の1日目に、案内人もついでに路線バス乗り方講習会を実施します。

結果	採用
担当課からの回答	即実施予定。以前から、行いたいと考えていた事業であり、今回試行で行った板取への路線バスの旅は、想定をはるかに超える反響がありました。利用者アンケートでも大変満足度が高く、別の地域でも実施してほしいとの声も多くありました。今回の西ウイングをはじめ、東ウイング、関市街地でも季節ごとのルートがあると良いとの回答もありましたので、観光交

流課と協議を行いながらモデルコースを作成します。

提案
4

関市における貧困家庭の数を把握する「相対的貧困率」の調査をしてください（福祉政策課）

概要) 世界的貧困の指標である「相対的貧困率」で、関市の貧困家庭の実態調査をする。

結果	不採用
担当課からの回答	貧困率の算出には、世帯ごとの収入や支出についての各種データを幅広く収集して計算する必要があります。現時点では調査方法などについて確立されておらず、困難ではないかと考えます。また、市町村単位で貧困率の算出を行ったとしても、それだけでは他の市町村等との比較をすることができないため、得られたデータをより効果的に活用するためには、ある程度、自治体間の比較ができるように調査方法等を統一して実施することが望ましいと考えます。

提案
5

学習支援を実施してください（福祉政策課）

概要) 定期的（週1回、2回程度）な学習支援を実施する。定期的に実施していくためには、今回のようにボランティアのみでの運営は難しいと考えます。関市として予算化し、実施していただくことが必要です。

結果	採用
担当課からの回答	市として貧困の連鎖を防止する上で、生活困窮家庭の子どもへの学習支援は必要であると考えます。当面は、活動を行っていただける市民団体を、今年度末募集のいきいき市民活動助成金(関市との協働事業)で支援しながら、将来的には、市民団体、NPO法人、社会福祉協議会等に委託することも検討したいと考えています。


提案
6

子ども食堂を実施してください（福祉政策課）

概要) 学習支援に合わせて全国的に広がっている子ども食堂を実施する。

結果	採用
担当課からの回答	「子ども食堂」を実施する市民団体への支援をします。現在、市として具体的な支援事業はありませんが、実施する市民団体が発足した際は、補助制度、場の提供などの支援策を検討のうえ実施したいと考えております。

【第5期】


 **提案 1** 子どもミュージアム商店街を継続して実施するための初期費用のサポートしてください（商工課）

結果	採用
担当課からの回答	本事業において、商店街を中心とした実行委員会開催される場合に、市としても協力サポートしていきたいと考えます。


提案 2 鵜飼に来たお客さんへ「小瀬・池尻周遊観光」のオプションツアー(有償)を作るお手伝いをしてください（観光交流課）

概要) 鵜飼に来たお客さんへ「小瀬・池尻周遊観光」のオプションツアー(有償)を作るお手伝いをしてください。将来的な運営は「関遊船」もしくは「関市観光協会」に任せることを前提に、オプションツアーを作るための、ガイドの育成、ツアーの企画、立ち上げの広報等のお手伝いをお願いします。

結果	保留
担当課からの回答	周遊地域への回遊性を高める施策の一つとして、オプションツアーの手法は効果的であり、今後チームで研究される時にはアドバイスさせていただきたいと考えます。

 **提案 3** 鵜飼乗船場に、「小瀬・池尻周遊観光」のマップ、看板を設置してください。（観光交流課）

結果	採用
担当課からの回答	課題等はあるものの、看板の設置、パンフレットによる普及啓発は効果的であり、観光交流課のみならず、関係課とも連携をして設置・作成する方向で考えています。

 **提案 4** 大学と市が連携した講義を提供してください（市民協働課）

概要) 関市のまちづくりや、歴史、福祉の現状が学べる講義を関市から提供してください。福祉・医療に関しては、担当の市職員や関市の施設での実習など、関市の実情から学べる機会を作ってください。

結果	採用
担当課からの回答	関市と連携している3大学の連携担当部署に早速相談に出向きます。その中で、理解いただけそうな感触があれば、講義の内容を充実するため各課と調整します。


**提案
5**

大学と市民合同の関市を知って楽しむためのサークル活動立上げに対してコーディネーターを置く支援をしてください（市民協働課）

概要 今回の企画でサークル結成の意向のあった学生たちを中心に、学生が関市の魅力的なスポットを訪れたり、イベントに参加できたりする活動を市民と大学生との合同で立ち上げます。市民や大学をまたがる活動になるため、その運営には、間に入って調整するコーディネーターが必要だと考えます。設立して軌道に乗るまでコーディネーター支援をいただき、徐々にメンバー内でできるようにしていくことが望ましいと考えます。

結果	採用
担当課からの回答	市民協働課と市民活動センターとで連携し、具体的なコーディネートの内容を検討し、コーディネーター設置事業を試行的に実施する方向で進めていきます。


**提案
6**

広報せきに大学生向けの情報の提供をしてください（秘書広報課）

概要 住民票を移さずに関市に移住してきた学生へ、広報せきを配布してください。大学生の暮らしに役立つ情報ページを、広報せきに設けてください。市からの情報の提供だけでなく、大学生が自身の目線から必要な情報を提供できるページとして設けてください。

結果	採用
担当課からの回答	大学生に広報紙を読んでもらえるよう、大学にも“広報せき”を配布します。 ・情報ページを大学生が作り手となって提供していくことは、おもしろい試みと考えます。作り手の候補となる提案2とあわせて考えていきます。市民に対して大学の情報を提供することも、検討していきます。

親子が地域資源を活用し、大切にするために

私たちが目指す関のまちづくりの宣言文

私たちの目指す姿は、「関市の資源が子育て家庭にひらかれて、発信活用されている」という関市です。

そのために、「関に住む、子どもを持つ家庭が関の川の遊び方を知らない」
という課題に取り組むことにしました。

課題の原因は「遊べる場所を知らない、親が自然の遊び方を知らない、親子が川に親しめるプログラムがない」ですが、今回は特に「親子が川に親しめるプログラムがない」に対して取り組みます。

これを解決するために、行政、企業、市民活動などの他組織の活動を踏まえ、
私たちは「チームに川の遊び方を知る達人がいるという強みを生かし「鶺鴒船に乗って川で遊ぼう」事業をすることで、関市の課題解決にもっとも貢献することができると考えています。

だから私たちは「鶺鴒船に乗って川で遊ぼう」をすることで、
「関市の資源が子育て家庭にひらかれて、発信活用されている」という関市を
実現します。

I 取り組んだ課題

関に住む、子どもを持つ家族が関の川の遊び方を知らない

また、議論の中で、「鵜飼船が昼に活用されていない」という課題も出てきたため、この両者の課題について取り組むこととなりました。

【その理由と根拠】

このテーマにおける課題の原因は何か、担当課を交えながら、部会メンバーで議論しました。

1. 遊べる場所を知らない

関市には、板取川、長良川、津保川等泳ぐことができる川がありますが、実際にどこで泳いでいいのか、どこで泳ぐと危険なのかが、知られていません。キャンプ場以外での遊泳できる場所を知らないことが、子ども連れの親が川で遊ばない一つの要因と考えます。

2. 親が自然の遊び方を知らない

話を聞くと、30代以下の人たちは、子どもの頃、関の川で遊んだ思い出が少ないようです。60代以上の方は、川で泳ぎ、魚を釣り、網で生き物を取るなど、子どもの頃、日常から川に親しんでいたようです。今、親世代である30代、40代が川で遊んだ経験が少ないことが、子どもに影響していると考えます。

3. 親子が川に親しめるプログラムがない

色々と調べてみると、今、親子が川で遊ぶイベントが多くないことがわかりました。地域ごとに、川の自然環境の観察会等は実施されていますが、川を楽しむ、川で遊ぶといったプログラムはあまり多くありません。

今回は、「親子が川に親しめるプログラムがない」に取り組むことにしました。

II 取り組んだ活動

「鵜飼船に乗って川で遊ぼうの実施」

小瀬の河原で、親子で鵜飼船に乗って川で遊ぼうのイベントを実施しました。昼間の鵜飼観覧船に乗船し、船から川を楽しみ、その後、網で川魚を獲り、足立鵜匠から鵜と鵜飼の話の聞きました。

日時：平成30年6月16日（土）9時から12時

集合場所：鵜飼乗船場

参加費：1,500円（箱メガネとタモ付）

参加者：16組

親子で川を楽しめる関市へ

鵜飼船に乗って川で遊ぼう！

6/16 Sat 9:00 ~ 12:00

※予定日23日(土)
以上の場合は、前日に開催します。

引越の子育てにはもともと川を求めたわけでは、地元の人々も川を遊び場を学ぶ会場です。

内容
①鵜飼の遊覧船に乗って魚を探ろう
②川原でウルルを獲ろう

集合場所 舟屋前 関市小瀬76-3
定員 16組(受付順)
参加費 大人1,500円
持ち物 濡れても良い靴(雨具)、タオル、着替え、帽子など
古対策グッズ
申込期間 6/3(日)～6/13(水)

申込先
関市市民活動センター
関市千代町2丁目18番地1
☎0575-24-7772

小瀬鵜飼屋形船 昼に活用

川遊びで試験的提供 関市民会議

小瀬鵜飼の屋形船に乗って川遊びや川魚の観察を楽しむイベントが16日、関市の長良川であった。

市民の視点から市に政策提案する一市まごっこの市民会議が主催。昼間は使われていない屋形船を活用して川遊びの機会を提供しようと、市内の親子を対象に試験的に行った。

16組、二十五人が屋形船に乗って、親子連れら＝関市地原で屋形船を下り、河原で網を持って魚を探す子どもたち＝関市小瀬の長良川で。

「反応良く今後も検討」

提案を受ける窓口となる、同市民協議会副会長補佐の河合康裕さんは「良い反応が得られた。今日のイベントを参考にしながら、昼間の船の活用を積極的に検討していきたい」と話した。

(鈴木太地)

(左) 事業のチラシ、(右) 中日新聞掲載記事

「関のいいところ再発見！チーム」

Ⅲ 実施結果

参加者から大変好評を得ることができました。
アンケート結果から、満足度が良好だった。

満足度 **100%** でした。

親…大変満足している **9割**、満足している **1割**
子…すごく楽しかった **9割以上**、まあ楽しかった **1割未満**

楽しかったこと

親…「船に乗る（37%）、魚を獲る（21%）、箱メガネで魚を見る（17%）、達人の話を聞く（13%）」

- ・船に乗れた。川魚獲りができた。またやりたい。との声を聴くことでできた。
- ・魚はあまり獲れなかったが、足立鶴匠がたくさん獲ってくれた。

第6期関市まちづくり市民会議（関のいいところ再発見！チーム）収支決算書

	区分	科目	単価	数	計	
収入	参加費	1500×13組	1,500	13	19,500	
	収入合計				19,500	
	区分	科目	単価	数	計	備考
支出	レクリエーション保険	保険対象者31名	32.25	31	1,000	保険フジヨシ
	備品	レク用魚とり網	1,728	1	1,728	セリア
	備品	レク用ダイビング&スノーケル	5,322	1	5,322	楽天
	備品	レク用ダイビング&スノーケル	4,822	1	4,822	楽天
	関遊船	観覧船貸出料	50,000	1	50,000	
	支出合計				62,872	

△ 43,372

IV その成果と見えてきた課題

《成果》

- ① アンケート結果から、全ての人が「満足」と回答していただきました。特に、昼間に船に乗る体験が親と子ともに感動した人が多かったです。
 現在、昼間は使われていない鵜飼観覧船ですが、活用できる可能性は大いにあることがわかりました。

《課題》

①船頭さんと船を確保すること

今回関遊船さんを通じて、船と船頭さんをお願いしました。昼間の船の貸し出しはこれまでなかったため、値段等の基準がありません。また、船頭さんとも、どう船を動かしてもらうのか打合せすることも必要となります。今後の活用にあたっては、値段や時間等の基準を作ってもらうことが借りやすさにつながると考えます。

② 安全対策、危険箇所の説明

今回のイベント中で、川の中に入ってうるるをとりましたが、これ以上進んだら危険な箇所には、船頭さんが、自主的に立っていてくれ、呼びかけをしていただけました。川遊びをする上で、その川の深くなる箇所や流れが早い場所等を熟知する必要を感じました。

V 提案と提案理由

提案 1	昼間の観覧船を活用したツアーの実施や、様々な人や団体が昼間の鵜飼観覧船を活用できる仕組みを作ってください
提案する課	観光交流課
概要	<p>弥勒寺官衙遺跡のガイドと観覧船を合わせたツアーや、長良川の鮎を獲る様子を案内し川を楽しむツアー等の観覧船に乗ることをセットにした小瀬周辺地域を楽しむツアーを実施してください。</p> <p>また、これらのツアー等の実施は、関遊船のみでは、マンパワーが足りません。より多くの人や団体が、鵜飼観覧船を活用しやすくする仕組みを作ることで、観覧船での活動の実施を担う団体がたくさん現れると考えます。具体的には、昼間の鵜飼観覧船活用する場合の、金額や時間等明確なメニューやルールをつくることや、船の費用の補助を検討してください。</p>

「関のいいところ再発見！チーム」

提案2	子どもたちの定期的な川遊びプログラムを実施してください
提案する課	観光交流課
概要	<p>関の魅力的な資源として、川に親しみ育つことが当たり前になるために、定期的に川遊びプログラムを実施してください。</p> <p>また、子どもが川に親しむことが当たり前になるためには、親も川を親しむことが必要です。そのために、川遊びができる親を育てるプログラムや、川の危険性を学ぶプログラムの実施してください。</p> <p>この企画の運営には、川の達人を集まった団体ができ、実施を担うことが理想です。そのために、当初は、市民活動助成金の行政提案メニューである「いきいき」助成金にて、公募するところから始めてもらうことが良いと考えます。</p>

提案の理由	<ol style="list-style-type: none">1. 観覧船の活用をすることで、小瀬鵜飼の観光客の増加にも繋げたいと考えます。2. 長良川などの関の資源を大切にし、その資源で子どもたちが親しみながら育ってもらいたいと思います。川で遊ばなくなった大きな理由は、危険性があります。そのために、川で安全な行動がとれる大人を育成する必要があります。
-------	---

VI 今後の展開

長良川は世界農業遺産に認定されたが、関市民はその恩恵を感じられていません。川で遊ぶ親子を増やし、合わせて関の地域資源の活用を進めたいと考えます。

- ・長良川の天然鮎の美味しさを若い人達にも知ってもらう
- ・また、小瀬鵜飼へのアクセスの問題があります。少なくとも小瀬鵜飼開始と終了に間に合うバスが必要だと考えます。

市民が積極的に外国人を迎えられる環境整備を！

私たちが目指す関のまちづくりの宣言文

私たちの目指す姿は、「関を訪れる外国人が、気楽に滞在できる

(安全性・言葉の壁・自然体の交流ができる)」という

関市です。

そのために、「外国人を受け入れる体制が出来ていない」

という課題に取り組むことにしました。

課題の原因は「宿泊できる場所がない、民泊に興味のある市民のサポート体制が

ない、市民が外国人に対して苦手意識がある」ですが、今回は特に

「民泊に興味のある市民のサポート体制がない」に対して取り組みます。

これを解決するために、行政、企業、市民活動などの他組織の活動を踏まえ、

私たちは「事業の経験者がいる」という強みを生かし「民泊説明会・民泊模擬体

験」事業をすることで、関市の課題解決にもっとも貢献することができると考えてい

ます。

だから私たちは「民泊説明会・民泊模擬体験」をすることで、

「関を訪れる外国人が、気楽に滞在できる

(安全性・言葉の壁・自然体の交流ができる)」という関市を実現します。

チーム「インバウンド〈外国人を迎える会〉」

I 取り組んだ課題

外国人を受け入れる体制が出来ていない

【その理由と根拠】

このテーマにおける課題の原因は何か、担当課を交えながら、部会メンバーで議論しました。部会メンバーには、民泊経験者が2名いたことから、外国人宿泊客の視点や、インバウンドに興味のある市民の視点で課題を考案しました。

1. 宿泊できる場所がない

岐阜県を訪れる外国人観光客は年々増えており、関市も、刃物まつりなどのイベントに来る外国人観光客も多くいます。しかし、せっかく訪れても、宿泊所が少ないため、長くは滞在できずに日帰りで帰るという課題があります。ホテルなどのほかに、市民間でも始められる民泊が増えることで、解決できるのではないかと考えます。

2. 民泊に興味のある市民のサポート体制がない

市民の中には民泊に興味のある人や、外国人との交流に興味のある人がいると考えられます。しかし、民泊に興味のある人が独自で始めるには、とてもハードルが高いと考えられます。民泊について十分に説明を受けられる機会や、始め方などの情報を得られるようなサポート体制が必要だと考えます。

3. 市民が外国人に対して苦手意識がある

関市で外国人を受け入れる体制を作るためには、市民が外国人を迎える気持ちを持つことが必要です。しかし、外国人を受け入れるにあたって、コミュニケーションや、安全面について心配し、苦手意識を持つ人も多いと考えられます。この不安を取り除くためのサポートも必要だと考えられます。

今回は、「民泊に興味のある市民のサポート体制がない」ことに対して、取り組むことにしました。

チーム「インバウンド＜外国人を迎える会＞」

Ⅱ 取り組んだ活動

「民泊模擬体験」の実施

まちづくり市民会議メンバーの民泊経験者を含め、民泊に興味のある市民へ民泊に関する説明会を実施しました。2度の説明会を設け、それを踏まえ民泊模擬体験を希望する参加者に対し、実際に関市内在住の外国人に宿泊してもらいました。事業実施後は、参加者へ感想や必要なサポートについてのヒアリングを実施しました。

①民泊に関する説明会 ～民泊提供者の実体験や民泊に関する法律などを説明します～

日時：平成30年4月29日（日）17時～18時30分

参加費：無料

対象：民泊に興味のある方

開催場所：河合慶子さん（民泊経験者）宅

参加者：9名

②民泊のハウスルールを決めよう

～民泊を提供する上で必要となるルール作りを説明します～

日時：平成30年5月27日（日）17時～18時30分

参加費：無料

対象：民泊に興味のある方

開催場所：河合慶子さん（民泊経験者）宅

参加者：4名

③民泊模擬体験

～民泊提供者協力のもと、実際に関市内在住の外国人を泊めてみましょう～

日時：平成30年6月30日（土）～7月1日（日）15時～12時

参加費：無料

対象：民泊説明会を受けた方で、民泊模擬体験に参加できる方

開催場所：参加者の個人宅

参加者：参加者2組、宿泊した外国人3名

チーム「インバウンド＜外国人を迎える会＞」

民泊受け入れ体験イベント ～民泊について学ぼう～

第6期まちづくり市民会議のチーム「外国人を迎える会」は、関市を訪れる外国人が気楽に滞在できるまちを目指すために、関市内における『民泊』の推進をコンセプトに活動しています。訪日外国人向けに空いているお部屋を有効活用したい方や外国人とコミュニケーションをとってみたい方などを対象とした説明会・催しを行います。

① 民泊に関する説明会

～民泊提供者の実体験や民泊に関する法律などを説明します～
 ●日 時：4月29日(日・祝) 午後5時～6時30分
 ●対 象：民泊に興味のある方
 ●参 加 費：無料
 ●集 合 場 所：河合慶子さん(民泊提供者)の自宅 関市山田1540-7

② 民泊のハウスルールを決めよう

～民泊を提供する上で必要となるルール作りを説明します～
 ●日 時：5月27日(日) 午後5時～6時30分
 ●対 象：民泊に興味のある方
 ●参 加 費：無料
 ●集 合 場 所：河合慶子さん(民泊提供者)の自宅 関市山田1540-7

③ 民泊模擬体験

～民泊提供者協力のもと実際に関市内在住の外国人を泊めてみましょう～
 ●日 時：6月頃(詳細は後日告知します)
 ●対 象：上記①②に参加した方
 ●開催場所：民泊提供を検討されている方の自宅など

◆申込み・照会先：市民活動センター ☎24-7772



(上) 広報せき 4月号掲載内容

(右) 4月・5月説明会の様子



(上) 民泊模擬体験、(下) 模擬体験後のヒアリングの様子

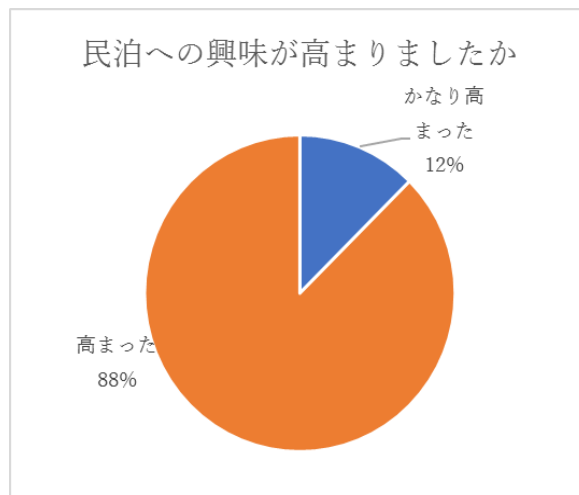
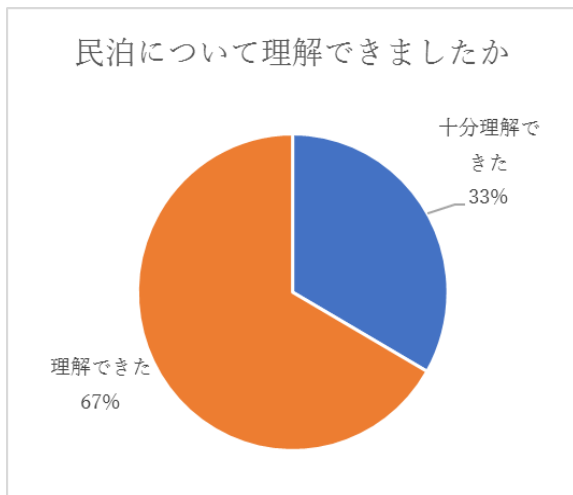


チーム「インバウンド＜外国人を迎える会＞」

Ⅲ 実施結果

・4月民泊説明会開催後のアンケート結果

アンケート回収数：9通（回収率100%）



Q. 民泊に関して、不安な点がありますか？

宿泊スペースの確保

登記

英語がしゃべれないこと

むずかしそう

食事やアクセスについて不安

仕事や育児（子どもがいてもOKか）、仕事の副業は大丈夫か

チーム「インバウンド〈外国人を迎える会〉」

- ・民泊模擬体験後のヒアリング結果

ホストから：

今回は（ホストの）子どもが積極的に参加したいということから参加した。
実際にはじめるときは、言葉の壁やコミュニケーション能力、家族の理解が必要だと感じた。

コミュニケーションについては、なにか困ったときのホットラインがあると安心。

（民泊の申請までした方）

部屋をどう使ってもらうのか、お客さんが見えたことで、普段の生活リズムに不便さを感じた。

民泊申請は何度も管轄まで行き来をした。

はじめから必要な資料について丁寧に教えてもらったり、申請書が細かくて見えないから入力サポートが欲しい。

第6期関市まちづくり市民会議(〈インバウンド〉外国人を迎える会チーム)収支決算書

	区分	科目	単価	数	計	
収入					0	
			収入合計		0	
	区分	科目	単価	数	計	備考
支出	傷害補償保険	保険対象者 5 名	1,582	5	7,910	保険フジヨン
	国内旅行保険	保険対象者 3 名	290	3	870	保険フジヨン
	レンタルスペース料	河合慶子さん宅レンタル料	4,000	4	16,000	2,000 円/H * 2H * 4 回分
			支出合計		24,780	

△ 24,780

チーム「インバウンド〈外国人を迎える会〉」

IV その成果と見えてきた課題

〈成果〉

- ①アンケート結果から、すべての人が「民泊について理解できた」「民泊への興味が高まった」と回答していただけました。また、当日の様子から、民泊仲介業者からの民泊の状況や民泊新法の説明を受けるだけでなく、実際の民泊経験者から自宅でのルールや心構えなどの話を聞いたことで、参加者の民泊へのイメージが深まりました。
- ②民泊の模擬体験を行ったことで、実施へのハードルを下げる事が出来ました。今回は宿泊者、宿泊提供者共に保険をかけ、またコミュニケーションがどうしたもうまくいかない場合や万一の事態に備え、民泊経験者と行政担当者の連絡先を予め伝えておいたことで、安心して模擬体験を実施することが出来ました。

〈課題〉

①家族への理解が必要

民泊の模擬体験を行った2組の参加者から、「自分一人ではできず、家族の協力が必要」と声を頂きました。また、1組の参加者からは、「家族の中でもコミュニケーションをとるのが苦手な人がある。それぞれの実施者がどうやって始めたのかを知りたい」という感想を頂きました。この感想は、民泊説明会を受けた方の感想にも「不安」という声が上がっていることにもつながります。民泊を始めるにあたって、どのように始めることが出来たのか、事例を民泊に興味のある方に提示することが必要であると考えます。

②民泊の手続きが煩雑

民泊の模擬体験を行ったもう1組の参加者は、既に民泊の登録申請まで進められた方で、「手続きが大変」という声が上がりました。現在は民泊新法が設立され、各窓口が対応しきれていないという現状がありますが、それを除いても、多くの申請書類が必要で、何度も窓口へ行き来する必要があるため、とても面倒との声を頂きました。今後、民泊に興味を持つ方の中にも、申請書類の作成が不得意な方が見えると考えられます。申請の手続きに関して、少しでもハードルを下げ、申請しやすい環境を整えることが必要であると考えます。

チーム「インバウンド〈外国人を迎える会〉」

V 提案と提案理由

提案 1	民泊に興味のある市民へ、民泊に関する説明会を定期的を実施してください。 また、民泊経験者も説明会に参加するような説明会を実施してください。
提案 する課	観光交流課
概要	1ヶ月に1回程度など定期的に、市民に向けて民泊の状況や、法律、申請方法に関する説明会を設けてください。 また、その説明会に市民の民泊経験者による体験談を話す機会を設けてください。

提案 2	民泊の申請がしやすくなるよう、書類作成のサポート体制を作ってください
提案 する課	観光交流課
概要	民泊申請には、多くの手続きや申請書類が必要です。申請書類の記入作業の軽減のため、確定申告会場での税務署のサポート体制のような、書類作成を手取り足取りサポートしてください

提案 3	民泊登録者のために、関市内外のイベントや観光情報を提供してください。
提案 する課	観光交流課
概要	民泊登録者へ、民泊申請時に、関市近辺の観光情報やイベントなどの年間行事などが集約されたパンフレット・マップを提供してください。

提案 4	関市内の民泊を実施した市民がどこで実施しているか、また民泊の始め方を集めた事例を情報として集約・閲覧出来るようにしてください。
提案 する課	観光交流課
概要	関市内の民泊を実施した市民がどこで実施しているかをリーフレットのような形で集約してください。 また、民泊の始め方（どのように家族の協力を得たのか、どのような手順で始めるに至ったのかなど）を集めた事例を民泊説明会時に渡すなど、情報として発信し、民泊を始めたい方へ周知してください。

チーム「インバウンド〈外国人を迎える会〉」

提案の理由	<p>1. 民泊に興味はあるものの、やり方が分からない人のために、実際の民泊内容（泊まり方）や民泊申請に必要な手順を事前に知り、検討できる機会が必要です。1ヶ月に1回程度など定期的に、民泊に関する説明会を設けることで、取り組み方を周知できます。</p> <p>また、市民の民泊経験者も説明会に参加することで、説明会後も、市民同士仲間として集まり、細かなアドバイスやフォローを行うことができます。</p> <p>2. 民泊申請には、多くの手続きや申請書類が必要です。特に、不得意な方は、申請書類の記入作業に苦勞されると考えられます。税務署のe-Taxのような、書類作成のサポートをお願いします。</p> <p>3. 民泊に興味のある市民は、「外国人と交流したい」という思いをもつ方が多く見えます。</p> <p>宿泊中に、市民が外国人に関市近辺の情報を提供することで、より満足度の高い宿泊になると考えます。</p> <p>そのため、ゲストにも関市近辺の情報が渡るように、関市近辺の観光情報や年間行事などが集約されたパンフレット・マップを民泊登録者に提供してください。</p> <p>4. 関市内の民泊を実施した市民がどこで実施しているかを（リーフレットのような形で）集約することで、関市での宿泊を考えているゲストへのアピールになります。</p> <p>また民泊の始め方を集めた事例を情報として発信することで、これから民泊を始めたい方への意欲の向上につながります。</p>
--------------	--

VI 今後の展開

民泊を関市で推進し、外国人に気楽に滞在できる環境を整えるためには、行政と市民双方で推進することが必要です。市民間では、個々で独立して民泊を運営するのではなく、経験者間や興味のある市民で情報交換を行い、互いに交流することで、横のつながりが生まれます。そのようなネットワークを形成するために、その窓口として上記の提案内容を行政で整備してもらいたいと考えます。また、関市の民泊が推進されることで、行政と市民だけでなく、企業や事業者も積極的に取り組む姿勢が生まれます。協賛店を募ることによって、ゲストに割引券、チケットの配布をしていただき、関市のインバウンド事業の活性化が望めます。

学生と地域をつなげよう！

私たちが目指す関のまちづくりの宣言文

私たちの目指す姿は、

「学生と地域がお互いを必要とする場がある」という関市です。

そのために、「ボランティア活動をしたい大学生と地域が繋がっていない」

という課題に取り組むことにしました。

課題の原因は「地域が何をやっているか知らない、大学生が参加したいボランティ

ア活動がない、ボランティア活動に参加するメリットが明確でない」ですが、

今回は特に

「学生が参加したいボランティア活動がない」に対して取り組みます。

これを解決するために、行政、企業、市民活動などの他組織の活動を踏まえ、

私たちは「当事者の大学生がいる」という強みを生かし

「プロジェクト型ボランティア」事業をすることで、関市の課題解決にもっとも貢献

することができると思っています。

だから私たちは「プロジェクト型ボランティア」をすることで、

「学生と地域がお互いを必要とする場がある」という関市を実現します。

I 取り組んだ課題

ボランティア活動をしたい学生と地域が繋がっていない

【その理由と根拠】

このテーマにおける課題の原因は何か、担当課を交えながら、部会メンバーで議論しました。部会メンバーには、大学生がいることから、現在の学生のボランティア状況や、なぜ学生が地域のボランティアに参加できていないのかについて、課題を考案しました。

1. 地域が何をやっているか知らない

関市内には3つの大学・専門学校があります。しかしいずれも専門性のある大学で、授業や日常生活で大学生は日々忙しい状態です。そのため、関市に在学していても、近隣の地域では何が行われているかが知られていません。また、地域と人々としても、若者の力を必要とするボランティア活動や、地域活動がありますが、両者がつながっている状態ではありません。

2. 大学生が参加したいボランティア活動がない

大学生の中でも、地域のボランティア活動に参加したいと考える人は多くいます。しかし、時間的に制限があること、人足的なボランティア募集が多いこと、情報を得る場所が無いことなどから、大学生が参加したいボランティア活動が無い状態です。

3. ボランティア活動に参加するメリットが明確でない

大学生は、自身の将来に活かすためにボランティア活動を経験したいと考えています。しかし、「将来に活かす」ことを考える大学生にとって、本当にボランティア活動に参加することが有効なのか、またどんなボランティアに参加することが良いのかが分からない人もいると考えられます。

今回は、「大学生が参加したいボランティア活動がない」ことに対して、取り組むことにしました。

Ⅱ 取り組んだ活動

①「行政・企業へのヒアリング」の実施

学生にとって、ボランティア活動に参加することは果たして自身の将来の役に立つのかということは、とても気になる点です。

今回は、関市市役所、福田刃物工業株式会社へ大学生がヒアリングを実施しました。

※ヒアリング内容は、必ずしも就職に有利になるとは限らないことを承知の上で実施しています。

回答方法

◎関市市役所…紙面での回答

◎福田刃物工業株式会社…大学生が会社へ訪問

日時：平成30年6月14日（木）14時～14時30分

開催場所：福田刃物工業株式会社

参加者：3名

②プロジェクト型ボランティア

「子どもミュージアム商店街 in 本町通り商店街」へのボランティア参加

ボランティア活動に企画段階から大学生が関わることで、大学生が求める社会経験を培えると考え、7月に開催された「子どもミュージアム商店街」の企画から実施まで学生に関わっていただきました。

日時：平成30年7月14日（土）（企画段階の6月から大学生が参画しました。）

開催場所：本町プラッツ集合、本町商店街内の商店12店舗

内容：本企画は小学生を対象に、本町通りの商店街12店舗のお仕事をハローワーク形式で体験してもらう企画です。昨年の第5期まちづくり市民会議から採択された事業で、今年は商店街連盟を運営主体として、大学生には店舗ごとの企画内容の考案や、事前に店舗へ足を運び、ヒアリングを実施しました。

参加大学生：企画…10名、当日…2名（※雨天により延期したため、参加人数が減少。）

チーム「関フレンズ」



(左) 企業ヒアリングの様子



(右) 子どもミュージアム商店街企画準備の様子



(上) 子どもミュージアム商店街実施の様子

Ⅲ 実施結果

・行政・企業へのヒアリング結果

行政からの回答

1	「ボランティア活動に参加すると就職に有利」だと考えられますが、この考えに対して、どのように思われますか。
	有利である ・ 有利でない ・ 内容による
2	どのようなボランティア活動であれば、採用したいと考えますか。
	“〇〇ボランティア活動を行っていた”という実績ではなく、その活動の具体的な内容や密度を評価すべきものと考えます。 どのような考えでどんなふうに取り組んできたかなど取り組む姿勢を感じることが出来るものであることが大切だと考えます。
3	どんな学生に貴社/貴庁で働いてほしいですか。
	人との関わりや学ぶ姿勢を大切に、何事にも積極的にチャレンジできる方。
4	ボランティアに限らず、学生のうちにどんな課外活動をしておくべきと考えますか。
	各種クラブ活動、学校内外のイベント・行事、国内外への旅など、学生だからこそできる経験が、社会人になって活かされることも多くあります。問3の人材像について言えば、こういった活動を主体的かつ積極的に取り組むことが大切だと考えます。

企業からの回答

1	「ボランティア活動に参加すると就職に有利」だと考えられますが、この考えに対して、どのように思われますか。
	<ul style="list-style-type: none"> ・ かならずしもあるなしは関係ない。 ・ 直接的には有利ではないが、アピールポイントとなり、経験値として身に付く。 ・ ボランティアをやり過ぎて学問がおろそかになるのもいけないのでバランスが大切。 ・ バイト、サークル、ボランティアそして学問をバランスよく取っていく。
2	どのようなボランティア活動であれば、採用したいと考えますか。
	<ul style="list-style-type: none"> ・ その仕事に対する熱意を知るために経験を積む。 ・ 経験がコミュニケーションに生きてくる ・ 大学の専攻が違っても何がしたいかがハッキリしているか。そのしたい事と企業がマッチすれば。 ・ 企業はその企業にない部分を補うために採用をしている。

チーム「関フレンズ」

3	どんな学生に貴社/貴庁で働いてほしいですか。
	<ul style="list-style-type: none"> ・与えられるよりもまずは自分から行動していく事が大切。 ・人付き合いの上手さや性格と仕事の特性を見ている。 ・コミュニケーションを作るには、色々なものに興味を持つ。趣味を持つ。 ＝仕事へ繋げる、仲間をつくるきっかけになる。没頭することでストレス発散になる。
4	ボランティアに限らず、学生のうちにどんな課外活動をやっておくべきと考えますか。
	<ul style="list-style-type: none"> ・学問第一。学べるのは今しかない。 ・じっくり考える時間も今しかない。 ・自分に気付くために経験を積むことが大事。 ・自信をつける、経験値を上げる為にボランティアに参加する。 ・人とのつながりを大切にすることに自分で気付けるか？ ・自分と向き合うか逃げるか？ ＝他人に指摘してもらうためにコミュニケーションは大切 ・つたえ方、能力の活かし方、仕事とプライベートの切替。 ・どんな仕事でも話す（コミュニケーション）ことは大事である。 →ボランティアにチャレンジして人の輪を広げて欲しい

・プロジェクト型ボランティアに参加した学生の声

紙媒体よりも声掛けの方が参加しやすい。

責任感を持って活動が出来た。

商店街と学生を繋ぐきっかけになった。

アルバイトでは味わえない経験ができた。

また参加したい（多数より）

IV その成果と見えてきた課題

《成果》

- ①企業・市役所へのヒアリングでは、ボランティアに参加することは、あくまでも参加したことが評価されるのではなく、
- ・内容重視（どのように関わったのか）
 - ・新しい人脈をつくるきっかけになる
 - ・人とのかかわりを持ち自分を知る
 - ・経験がコミュニケーションのきっかけ
 - ・仲間を作るきっかけになる
 - ・企画モノであればグループワークに役に立つ
- という、上記の理由から社会で役に立つという回答を頂きました。

- ②プロジェクト型ボランティアに参画した大学生からは、「また参加したい」との声を多く頂きました。人足的なボランティア活動では得られないような経験や、責任感を持って活動できたこと、またボランティアをきっかけに地域の人々と繋がる事が出来たことも、アルバイトでは味わえない経験を得ることにつながりました。
- また、今回は市民会議のメンバーである大学生がゼミや授業で直接声をかけたことにより、参加人数を多く募ることができ、紙媒体よりも声かけの方が参加しやすいという結果が得られました。

《課題》

①学生と地域を結ぶネットワークの必要性

今回は直接の声かけにより学生を多く集めることが出来ましたが、毎度のボランティア募集では知人への声かけだけでは、限度があります。また、地域としても、ボランティアを募りたくても、どこへ声を掛ければよいのかが分からなければ、学生と地域がつながることが出来ません。大学の中では、特定のボランティア活動を行う団体が多くあります。これら団体と地域が日々つながっているネットワークの存在が必要であると考えます。

②プロジェクト型ボランティアづくりの必要性

今回の事業では、大学生にとっても満足度の高い結果となりました。企画段階から関わり、地域とのつながりが生まれる活動へのニーズがあると考えられます。しかし、実際に地域で必要とされているボランティアは、当日の人足的なボランティア募集が多くみられます。ボランティアを必要とする地域団体に対して、プロジェクト型ボランティアとして企画・運営をアドバイスできるコーディネーターが必要であると考えます。

V 提案と提案理由

提案 1	ボランティアネットワークを行政が音頭をとって作ってください。
提案する課	市民協働課
概要	大学内にはボランティア活動を行う団体がいくつかあります。これらの団体と、ボランティアを必要とする地域へ呼びかけていただき、両者をつなぐネットワークの立ち上げを主導して行ってください。

提案 2	ボランティア受け入れ側への研修や、コーディネートを行ってください。
提案する課	市民協働課
概要	ボランティアや大学生の協力を必要とする地域団体（受入側）に対して、プロジェクト型ボランティアとして募集できるように、指導してください。大学生との窓口は提案 1 のネットワークからつなぎたいと考えます。地域団体独自でボランティア募集をかける前に、ボランティア内容、目的、期間、募集人数、参加方法、得られる経験などをきちんと明確にし、大学生にとって参加したいと思えるボランティア募集内容作りへのアドバイスをネットワークに参加した地域団体へ行ってください。

提案 3	関市内のボランティア参加者へ「しあわせ循環ポイント」を付与してください。
提案する課	商工課
概要	関市のボランティア活動に参加したことをカタチとして残すために、ボランティア活動に参加した学生に「しあわせ循環ポイント」を付与してください。

提案の理由	1. 学生の中ではボランティアをする団体がいくつかあります。しかし、地域と関わるボランティアとは必ずしもつながっておらず、地域と学生がつながっているとは言えません。ボランティアを必要とする地域と学生をつなぐコーディネートとして、ネットワークの立ち上げを主導して作ってください。ボランティア募集は現在大学を通じて、ボランティア掲示板に張り出されて募集されます。それではなかなか情報が学生に伝わりません。学生がボランティアに集まってもらうためには、学生自身が学生に声をかける事が最も有効です。
-------	--

<p>ボランティアをやりたい学生と直接つながる場が必要と感じました。</p> <p>2. 行政・企業のヒアリング結果から、学生の将来に役立つ経験としてボランティアに参加してもらうためには、学生自らが企画・参画するような「プロジェクト型ボランティア」が地域ボランティアで作られる必要があります。しかし、現在は人足的な募集が多く、また、参加方法も明確でない募集情報が多い状態です。受け入れ側への指導をしていただくことで、地域と学生が関われるボランティアを増やすことが出来ると考えます。</p> <p>3. 学生が地域のボランティアに参加するには、将来に役立つ経験をすることが必要です。ほかにも、関市のボランティア活動に参加したことをカタチとして残すために、記念となるものもあると良いかと思います。また、「しあわせ循環ポイント」制度を付与することで、学生が継続的に地域のボランティア活動に参加する意欲を高めるとともに地域での消費も促進されます。</p>

VI 今後の展開

私たちが目指す姿は、学生と地域がお互いを必要とする場がある関市です。関市には、医療や福祉を専門として勉強する学生が多くいますが、授業や勉学で忙しい学生が多く、関市へ在学していても、地域とのかかわりを持つ学生は少ないままです。

将来に役立つ経験を培えるボランティア活動をきっかけに、学生と地域が結びつき、より関市の地域活動が活発になることを望みます。